

注目ポイント！

- 隠岐の資源である魅力的な“人”を活かした観光振興。
- OKI まるごとミュージアム化によるエコツーリズムの推進。



総人口約24,000人の島に年間約420,000人(人口比約18倍)の入込み客！
『風待ち海道エコツーリズム大学』参加者が約400人(H16)から約500人(H17)に！



赤尾展望所より国賀海岸を望む
(西ノ島町)

コラム

「観光による離島振興を進める
カリスマ」として、隠岐の島の観光
振興に尽力し、平成6年から「ふる
さとにぎわい事業」を創出した。
春の桜祭り、夏祭り、秋祭りを年
間観光行事と位置づけ、島外へ
向けてのPRを
行っている。現
在は、隠岐の
島町商会々
長としても隠岐
の観光振興に
積極的に取り
組んでいる。



観光カリスマ
吉崎 博章氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---|
| 平成 9年(1997) | 全国公募による「商品開発研修生受入事業」がスタートする(海士町)。 |
| 平成10年(1998) | 海士町の特産品「島じゃ常識 さざえカレー」を発売する(商品開発研修生制度により開発)。 |
| 平成14年(2002) | 海士町の玄関口である港ターミナル「キンニャモニャセンター」がオープンする。 |
| 平成15年(2003) | 第1回として隠岐ツーデーウオークが開催される。
NPO法人『海士人(あまじん)』が設立される。
官民協働のまちづくりグループ『風待ち海道倶楽部』が結成される。 |
| 平成16年(2004) | 新たな観光資源の発掘と人材育成を目的とした、風待ち海道エコツーリズム大学が開催される。 |
| 平成17年(2005) | 隠岐学講座『風待ち海道エコツーリズム大学』を東京大学、関西大学で開催する。
第3回として隠岐ツーデーウオーク(島前)・せっかくウオーク(島後)を連携して開催する。 |



隠岐の自然が創りだした巨大な
オブジェ、ローソク島(隠岐の島町)

主な取り組み

NPO法人「海士人(あまじん)」による過疎の町おこし (海士町)

海士町のおかれた状況に危機感を感じた若者(Uターン・Iターン)が集まり、少子高齢化が進む町の活性化を目的として平成15年にNPO法人「海士人(あまじん)」を設立。豊かな自然環境を舞台としたシーカヤックガイド、障害者を対象としたマリンスポーツ体験等を企画し、観光客へ島の魅力を伝えると共に環境保全の啓発を図る活動を展開。

このような島ならではの活動や島内での様々なイベントの開催により地域活力が向上し、町が進める定住促進・産業振興策と一体となり、Iターン・Uターン者が移住してくるきっかけともなっている。



シーカヤックガイド

とって隠岐ツーデーウォーク (隠岐全域)

平成15年に隠岐島前地域で新内航船が就航したことを記念し、隠岐の魅力発信、交流人口の拡大を推進することを目的とした「とって隠岐ツーデーウォーク」を開催。地域住民がボランティアスタッフとして運営協力する等、地域挙げてのイベントとして定着。

平成17年からは、島後地域のコースをオプション企画として加え、隠岐の島全域が連携した取り組みに。



ツーデーウォーク開催状況

風待ち海道倶楽部の取り組み (隠岐の島町)

沈みがちなまちの雰囲気打破すべく行われたワークショップを通じて、まちづくりの機運が高まり、平成15年に官民協働のまちづくりグループ「風待ち海道倶楽部」を結成。

同団体は、中心市街地活性化を目的とした朝市、港での結婚式、高速船待合室でのコンサート等を開催。地域住民と観光客との交流の拡大を推進。

また、平成16年度より「風待ち海道エコツーリズム大学」を開校し、観光客の受け入れ体制の整備及び島外へ向けた積極的な情報を発信。



多くの人で賑わう朝市

問い合わせ先

○海士町交流促進課
Tel : 08514 - 2 - 0017
<http://www.oki-ama.net/>

○知夫村産業課
Tel : 08514 - 8 - 2211 <http://www.chibu.jp/>

○西ノ島町観光商工課
Tel : 08514 - 6 - 0700
<http://www.town.nishinoshima.shimane.jp/>
○隠岐の島町商工観光課
Tel : 08512 - 2 - 8575 <http://www.e-oki.net/>